



草小積みづくり

「子どもパークレンジャー」は、子どもたちが環境省のレンジャーとともに、阿蘇の自然と触れ合い、保護活動を学ぶことをねらいとして行っている活動です。牧野組合の方の指導のもとに、刈り取られた草を積み上げて作る「草小積み」づくりの体験なども行っています。

10月
2008

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13 体育の日	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

草原再生の取り組みの普及・啓発、合意形成

草原再生の取り組みを効果的に進めるためには、幅広い人々に草原の現状と再生事業の趣旨を理解してもらい、参加を促し、合意形成を図っていくことが大切です。環境省では、平成15年から、ホームページにより全国に向けて情報の発信を行うとともに、関係者向けのニュースレターや、地元小中学校及び保護者を対象とした草原新聞などを発行し配布しています。



農家の人に技を教わる子どもたち



干し草を蓄えて冬を待つ



干し草刈り

秋になると大量の草を刈り取って保存します。採草は、冬の間の牛のえさを確保する大切な作業です。また草原の植物にとっても意味があり、スキの占有が抑えられ、様々な草花が育つことができます。しかし、近年は牛の数が減り、採草作業を行わない草原が増えています。

11月
2008

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	31	1
2	3 文化の日	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 勤労感謝の日 / 30	24 振替休日	25	26	27	28	29

作業道整備

環境省では、牧野組合との協働で作成した牧野内の野草地環境保全計画に基づき、野焼きなどの維持管理活動や採草の継続に必要な管理道を整備しています。牧野内で伐採した樹木のチップを利用したり、ジャリを敷いたりして、環境に配慮した作業道整備を行っています。管理道の整備により、作業が軽減され、それによって野焼きや採草が継続されることを期待しています。



干し草はロールの形でも保存されます

